

# 令和2年度 岡山県立勝間田高等学校 学校評価書

校長 中野 功 ㊞

## 1 自己評価

### I 評価結果

(別紙参照)

### II 分析・改善策

#### 1 学力向上

- ・家庭学習を定着させる。
- ・授業改善を行う。

主体的対話的で深い学びを意識しながら、多くの教員が状況に応じて協同学習やICT機器を効果的に活用した授業を実践している。特に1人1台端末時代到来に向け各自研修を行っている。中でも今年度は家庭学習時間とユニバーサルデザインを意識した授業に焦点を当て業務を行ってきた。しかし、年度当初の新型コロナウイルス感染症による休校や日々の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に翻弄された一年であった。

そのような中ではあるが、オンライン授業を想定したICTの活用について校内研修も行き、G-suiteの導入についても年度内に実施できた。また、一部教科ではあるが課題の配付等の活用や、学校行事でのオンラインによる発表会等の実践も行った。

##### (1) 家庭学習について

中間期の家庭学習実態調査では家庭学習時間0時間の割合が59.3%であった。休校後の授業において、課題等については計画的に与えていたものの約6割の生徒が家庭で学習を行っていないという実態であった。理由としては本校の生徒の学力差が大きく、学力の高い生徒は帰宅前に学校で完了する一方、学力の低い生徒や支援の必要な生徒にとっては、1人で課題を行うことができない生徒が多いという状況もある。個別最適課題を課すことができているという状況であるが現状では同一課題の中に難易度をつけて課している。年度末でも予習・復習・課題等、家庭での学習時間が確保できている生徒の割合は41.5%(前年比+5.9%)に止まった。来年度もこの課題については継続的に取り組んでいく必要がある。

##### (2) 授業改善について

本校の重点取り組みのひとつであるユニバーサルデザインを意識した授業改善は、年間を通じて授業づくりの指標とした。その結果「学校は落ち着いて授業が受けられる環境である：生徒回答75.5%(前年比+12.7%)」「わかりやすい授業が多い：生徒回答67.5%(前年比+6.4%)」と前年度より向上が見られた。今後も継続して取り組んでいく。

#### 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」を徹底し、基本的な生活習慣と安全な生活を確立させる。
- ・部活動と生徒会活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせる。
- ・校内美化、校外清掃活動を推進する。
- ・自己の健康について関心を持たせ、健康意識を高めさせる。

生徒課を中心に生活指導を学校全体で取り組んだ。近年の傾向としては暴力的または反社会的な事案は減少傾向にある一方、軽微な違反(スマホ使用違反・服装違反等)が目立つ。職員一丸で取り組んでおり、ネクタイ・リボンの貸し出し件数182件、指導票指導件数は120件であった。服装規定が変更され昨年度との比較は難しいが、貸し出し件数は約

1 割減少。指導票指導は約 4 割減少している。今後も継続して指導を行う。

また、校内美化については、学校内外より「きれいな学校」という評価をいただき始めた。実際に校内を歩いても空き缶やペットボトルの投げ捨て等は見られない。さらに園芸系列の取組も有り玄関や中庭にはいつも花がきれいに植えられている環境にある。この点については啓発等を継続し、この環境を保っていく。

一方、新型コロナウイルス感染症による休校で 1 学期生活習慣の乱れが生じた生徒もいたが、2 学期以降は概ね良好な状況が続いている。マスクの着用率についても 3 学期は 99% であった。自分を守る行動が定着しつつある。職員も週番を中心に毎日消毒作業を行っており、生徒の安全確保に向けて取り組んでいる。

### 3 進路実現

・進路の活動を通して、主体的に進路決定できる力を育てる。

新型コロナウイルス感染症による影響で就職試験の日程変更や校内での外部人材を活用した「ジョブフェア in 勝間田」等の進路行事が中止となるなど大きく影響を受けた 1 年であった。一方求人件数はほぼ昨年並みの件数をいただきありがたいことであった。3 年生については担任の先生の生徒・保護者への助言等の元、本人の希望や納得のいく進学先・就職先に概ね落ち着くことができた。ただし、生徒の学力や学習意欲はここ近年格段に下がっている。中学校の時に特別支援学級（知的・情緒）に在籍していた生徒の割合も年々増加しており、職安等と連携しながら生徒の進路について相談・助言等を行っていく必要が生じている。今後も生徒や保護者対象の進路説明会を行うとともに、来年度さらなる改善を行う必要がある。

### 4 情報発信・広報

・学校の情報発信

8 月実施予定であったオープンスクールは新型コロナウイルス感染症の影響により 10 月に延期実施した。中学生の参加者 96 名、保護者等 55 名の参加であった。また、中学校での進学説明会で使用するプレゼン資料や学校 PR 動画を教員で協力し、全教職員参加型のプレゼン資料や PR 動画を作成することができた。

個別学校説明会についても 8 月・11 月・12 月の 3 回実施し、延べ 28 名の参加であった。（11・12 月は土日開催）

地域の広報誌「広報しようおう」には毎月裏表紙半面いただき、地域に学校行事を発信している。今後も継続し、地域への広報として有効に活用していく。

Web 発信については、行事ごとに新着情報としてアップしているが、日々の学校生活の発信が求められている。アップに係る負担等もありなかなか進んでいないというのが現状である。来年度は地域協働活動コーディネーターを活用し、さらなる情報発信をしていく。

## 2 学校運営協議会委員（評価者）＜※校長を除く＞

水嶋 淳治	勝央町 町長
中島 章	勝央町教育委員会 教育長
竹内 由明	勝央町立勝央中学校 校長
光井 俊之	学校法人美作学園 美作大学 事務局次長
喜井 啓	勝英農業普及指導センター 総括副参事
三ヶ田浩二	キャリア教育コーディネーター
石原 達也	岡山NPOセンター 代表理事
野上 和宏	勝央町立勝央中学校 学校運営協議会 会長
本行 才泰	しょうおう志援協会 会長
佐桑 充倫	勝央町 地域おこし協力隊
定兼 征輝	岡山県立勝間田高等学校 同窓会長
安東 厚生	岡山県立勝間田高等学校 同窓会副会長 前校長
永禮 淳一	岡山県立勝間田高等学校 前PTA会長
岸本加奈枝	岡山県立勝間田高等学校 PTA会長

## 3 学校関係者評価

第1回 令和2年 7月 3日（金） 13：00～16：00

### 【主な内容】

- 委員紹介
- 学校運営協議会について（説明）
- 会長選出
- 本校の現状と課題（説明）
  - （1）令和元年度の教育活動・学校評価書
  - （2）令和2年度学校経営計画書・予算書
  - （3）令和2年度教育課程及び令和3年度入学生教育課程（学校要覧）
- 質疑応答
- 意見交換

### ＜委員からの意見等＞

- 総合学科の新1年生の各系列の人数について教えてもらいたい。
- 勝央町の特産品開発という視点で取り組んでいる内容と勝央町として特産品として力を入れたいものについて教えてもらいたい。
- 運営協議会として、どのような課題や要望があるのか教えてもらいたい。
- 各委員の専門性をどのように活用すれば解決できるのか。どのような提案ができるのか。
- 農業者として、農業の基礎を学んだ人を勝間田高校からたくさん輩出していただきたい。
- 昨年度、大学側から（勝間田高校へ）教員を2人派遣した。食品の授業（課題研究発表）に参加した教員2人とも生徒の発表を聞いて最初から関わりたいという感想を持った。（しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症のため現時点で参加できていない）
- スクールミーティングについて期待している。

第2回 令和2年11月24日（火） 13：00～15：30

### 【主な内容】

- 授業参観及び施設見学
- 報告
  - （1）学校経営に関する事項
  - （2）組織編制に関する事項
  - （3）予算執行に関する事項
  - （4）その他関連する事項

- 協議
- 情報交換

<委員からの意見等>

●和気閑谷高校は県外から講師に来てもらい探究型の授業を行っている。今、課題解決力がある人材が必要である。何か課題を見つけて調べて探究し結果を出すことをさせようとされている。各系列の特色の中でできたら非常によいのではと思う。

●林業の学びがなくならないようにしてもらいたい。

●これから学校がどのように動いていくのかなと思う。勝間田高校の課題の内容をシンプルに言えば、目的を持って勝間田高校に来たいと思っている生徒を、少子化で子供たちが減っていく中、学校が生徒募集をかけて情報を発信し、勝間田高校を志望する中学生を増やしていくかが一番の課題である。

●子供の数が減ってきているが、もう少し違った角度、方法で勝間田高校ができることがあるのではないかと思う。そのことを追求していけば、生徒から集まってくるであろう。勝間田高校の存続にはっきり方向性を出せればすばらしい。この地域を支える学校になれるのではないか。

**第3回 令和3年 2月24日(水) 13:30~16:00**

**【主な内容】**

- スクールミーティングについて(ビデオ)
- 学校課題解決に向けての取組状況(報告)
- 委員等による学校支援状況の共有(報告)
- 学校評価
- 令和3年度に向けた学校運営基本方針審議
  - (1) 令和3年度学校経営計画書
  - (2) 令和4年度入学生教育課程
  - (3) 令和3年度学校経営予算

<委員からの意見等>

●評価書の評価について、大項目一括評価となるとどうしてもB段階になってしまいがちである。来年度は小項目ごとに評価ができるようにしてもらいたい。

●小項目の中には十分達成できている(A段階)と評価できる項目もある。

●来年度の学校経営計画書の中に「農業関連産業の人材育成」という文言が入ったことはとても心強く感じている。

●高等学校魅力化推進事業(リージョナルモデル)について、勝間田高校には地域と連携するためのコーディネーター的な人材配置が望まれる。よって本校教育の魅力づくりを支えるための人材雇用予算が必要である。

#### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

##### 1 学力向上

- ・家庭での学習を推進し、生徒の自主的・主体的な学習への取組を研究、実践。
- ・学び合い、ユニバーサルデザインによる授業やソーシャルスキル教育の実践。
- ・社会人講師等の地域人材を活用した専門知識・技術の向上。

##### 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」の深化、基本的な生活習慣と安全な生活の確立。
- ・生徒会活動と部活動の充実。
- ・交通安全の徹底。
- ・校内美化、校外清掃活動の推進。
- ・自己の健康への関心と健康意識の向上。

##### 3 進路実現

- ・進路の活動を通して、主体的に進路決定できる力の育成。
- ・各系列の特色を活かしたインターンシップの実施。

##### 4 情報発信・広報

- ・オープンスクール・中高連絡会・中学校での説明会等、学校情報の発信。
- ・福利厚生・PTA行事等への情報発信。
- ・地域協働活動コーディネーターとの連携。
- ・教職員間の情報共有と連携。